

タイトル名：SDG'sを使った地球規模で考え探究する新しい日本語教育 タイトル英文名：  
New Inquiry

Japanese Education on Global based issues using SDG's 7. Presentation Category A.  
Pedagogy (pre-college)

内容：この発表では、国際連合のSDGs17を基盤とした探究的な学習の実際を報告することで、地球規模で考え探究する日本語教育の発展的な検証を行う。

まず、授業の目的、対象となる学習者、主な学習活動について報告する。それは、現在の課題を21世紀の国連の課題である持続可能な開発目標やヨーロッパのCERFを使ったCLILの活用をカリキュラム・デザインの観点から整理し、概念化や価値化やエッセンシャル・クエッションの設定によって、学習者の探究を喚起する探究の共同体の形成を図る。次に、単元の中で具体的に何が行われていたのかを報告する。そしてその使用例としての概念化の徹底化と質問力の探究化以降の（IBのATL「学習の方法」やOCG）によるディフェレンシエートなプログラムの検討と、学習者の成果物や学習活動の記録に基づいて、授業のスカホルディング化を分析することでどのような成果と課題が見られるのか検討する。

また、探究型多読教材（探読）としてデジタル教材、様々な教室教材、多様な創造的な発表教材として開発していく。また、その多様に産出される発表を地球規模の具体的で横断するアポロ計画に基づき、例えば、持続可能な開発に関する個別の知識をデジタル地球儀に、住んでいる都市についてのローカルな発見をデジタル地球儀に載せることになる。この探究共同体は、ニューヨークの幾つかの学校に通う日本語教育者達と日本語学習者達を対象に協働作業として生まれ、実施されるものである。自分達の学校や町の紹介を、Web上のデジタル地球儀に掲載するというプロジェクトを通して、日本語の学習に加えて、良い教育や良い社会とはどのようなものかという地球規模の課題に関して（広島、長崎、福島を含め）、探究的な学習を進めていく。

その際に、具体的な題材として「持続可能な開発目標（SDGs）」を使用し、成果物を発表するメディアとして、Web上に掲載されるデジタル地球儀を活用する。また、地球規模の課題に関する探究を促すための多読教材（「探読教材」）も、授業を担当する教員同士が協働することで開発する。それゆえに、この運動体は、日本語教育に対して新しい示唆をもたらす可能性がある。プロジェクトに基づいた日本語の学習にとどまらず、自分自身や地域との相互のつながりを意識するような、より探求的な学習として位置付くことが期待できる。